

「本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」に対する意見と市の考え方

1. 意見等の募集期間 令和5年1月11日（水）～令和5年2月9日（木）

2. 意見等の受付人数 1人 1件（提出方法の内訳：電子メール1人）

※提出された意見は、原則として原文通りの掲載としていますが、本庄市パブリックコメント実施要綱第8条の規定に基づき、提出された意見の一部を省略しています。

3. 提出された意見と市の考え方

	頁	提出された意見	提出された意見に対する市の考え方
1	-	<p>年が明けて本庄市から沢山の市民コメントを求める計画案が出されました。</p> <p>① 本庄市文化財保存活用地域計画（案） ② 本庄市子ども読書活動推進計画（案） ③ 本庄市都市計画マスタープラン ④ 本庄市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）</p> <p>小生、全部に目を通しました。さらにケーブルテレビで議会論議も見ました。 感想は、まあ、よくもそれぞれが好き勝手なことを並べて論述しているなと思いました。 特に文化財・・・については古い重箱に隅にこびりついた米粒を楊枝で拾い出し、これは古代の赤米ではないか、 或いは越のひかりだとか言っているようなもの。拾い出しても食えない。</p> <p>何で本庄市は市長も教育長も過去ばかりを見ているのだ。カナダの精神科医 エリック・バーン氏は「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」と言っています。本庄市のリーダーたちは過去ばかり見ているのだ。そこからスタートするのが良いが過去を想像するだけで未来を想像していない。</p> <p>市民や若者は日常の風景からいている。その結果が様々な数値や風景に表れている。 【中略】 更に本庄市に横のつながりを大切にする行政そして導きも無い。 【中略】 それは埴保己一を必要以上に美化している。議会を見ても本庄市の未来ではなく埴保己一を大きく見せようとしている。そんな論議に時間や市税を使わないで欲しい。</p> <p>このままで行くと5年後の本庄市は「草茫々の本庄台地」に戻る。市長、教育長、財政企画部長の答弁は「経過説明」「現状説明」「出来ない」「しない」「やりたくない」最後にご理解を賜りたいで終わり。 【中略】 （次ページへ続く）</p>	<p>ご意見として承ります。</p>

	頁	提出された意見	提出された意見に対する市の考え方
1	-	<p>(前ページからの続き)</p> <p>少し説明して上げましょう。本庄市は土農工商の江戸時代の農業と町人文化の延長にあるのです。要するに武士文化や職人文化は殆どなかったのです。だから高価な文化財はない。ところが日本には武士文化と町人文化や農民文化が混ざり合ったところもあるのです。それが「秩父市やその近辺」なのです。秩父歌舞伎が典型です。どうして秩父に武士文化が起きたのか知っていますか。そうした多様な文化が日本にあるのです。本庄市が「歴史と文化が薫る」などと言うから人々は馬鹿にするのです。</p> <p>読んでみて呆れた。「つみっこ」は米が食べられなかったからである。いわゆる代用食であり、それで白いご飯を補っていたのである。すいとんである。 【中略】</p> <p>小生は本庄市役所職員に言いたい。</p> <p>諸データがあり、将来像の課題を抽出しながら過去から一步を踏み出せないのか。信じられないのです。人生を過去を振り返るだけに使ってよいのですか。 【中略】</p> <p>まずは、全ての職場で本庄市の立つ位置【中略】から考えたらどうでしょうか。 【中略】</p> <p>諸計画案、議会内容、議員広報ビラ、ケーブルテレビ放映内容、自治会活動から感じた。</p> <p>以上 返事はおりません。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>